

ウィズ ～ともに～

# WITH



おれんじ村

発行：社会福祉法人 くまもと障害者労働センター 〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-5-4 0  
TEL: 096-382-0861 FAX: 096-285-7755 <http://1985orange.com>

2023年10月1日

## ごあいさつ

社会福祉法人くまもと障害者労働センター  
理事長 花田昌宣

秋の音がきこえる美しい季節が到来しました。皆様方におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび、社会福祉法人くまもと障害者労働センターは、水俣市に事業所を置く企業組合エコネットみなまと法人を統合し、あらたに広域の事業展開してまいります。

企業組合エコネットみなまとは、水俣において水俣病を教訓に環境負荷の少ないせっけんの製造・販売事業を展開しており、近年は無農薬・有機の柑橘類の生産や販売に取り組んでおります。

企業組合は、本来、共同出資、共同運営原理に基づく協同組合的な事業体として展開されるものでエコネットみなまの事業は先進的な取り組みとして全国から注目されておりました。また、エコネットみなまでは、地域に根ざした社会福祉事業（就労支援事業）を展開しており、NPO法人共同連を通してくまもと障害者労働センターとも長年にわたって交流を重ねてきました。

このたび、社会福祉圏域を超えて社会福祉法人化が可能であることを踏まえて、くまもと障害者労働センターはエコネットみなまと事業統合することといたしました。

事業のさらなる拡大と社会福祉的・事業活動および人的側面、事業的側面、資産的側面からの法人の組織的統合に関しては、時間をかけて丁寧に進めてまいります。なお、くまもと障害者労働センターは、従来同様、理事会などの事業運営に、障害当事者や地域の人々も参画し、社会福祉法人でありつつ統合後も当事者主体の事業運営を貫いてまいります。


この度のエコネットみなまとの、事業統合ならびに法人統合を通して、くまもと障害者労働センターがすすめてきた社会福祉事業活動のいっそうの発展が期待されます。

どうぞ経過についてご理解いただき、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。




# 大女子きな おれんじ村



 熊本県立大学 総合管理学部3年  
荒木 春香



 恒例『はるみさんの自宅公開』

おれんじ村の夏。たくさんの実習生。

大学から多くの学生さんが実習として、おれんじ村に学びにやってきます。教師を目指す人、社会福祉士を目指す人、いろいろな人が来ます。今回は実習生の感想を紹介します。

私は、おれんじ村で5日間の実習をさせて頂いた。この5日間、お弁当作りやお菓子作りなどを通してたくさんのメンバーの方と過ごすことができた。そこで過ごした時間はとても充実したものであり、実習前の不安が嘘のように、初日からとても楽しく過ごすことができた。その中でも私の考えをがらりと変えた日がある。それは、脳性麻痺のTさんとお話した日だ。この日をきっかけに、障がい者に対する私の考えや思いが変わった。これまでの私は、障がい者の方を見かけると「怖い」「どう接すればいいのか」と考えてしまうことがあった。そのため、Tさんとお会いする前は、上手くコミュニケーションがとれるのか不安だった。しかし、実際に話してみると「怖い」ではなく「楽しい」と感じていた。言語障害を持つ方であったので、コミュニケーションをとることは容易ではなかったが、五十音表を指さしながら伝えて下さることもあり、上手くコミュニケーションをとることができた。きっと、これまでの私は、無意識に障がい者の方を差別的な目で見てしまっていたのかもしれない。私はやっと“一人の人間として”見られるようになったのだと思う。これまで怖いと感じてしまっていた自分が差別的な目で見てしまっていたことに気づかされた。それ以外にも、昼食をメンバーの方と過ごすことで、趣味の話や家族の話、好きなジャンズの話まですることができ

た。話していく中で、私の質問でメンバーの方を困らせてしまったことがあった。その時一緒に話していたメンバーの方が、「〇〇さんには難しいかも。△△△ということですよ」と、私が質問したことを分かりやすく聞き直して下さったことがあった。その時、メンバーの方はお互いに理解しあっているのだと感じた。おれんじ村では「共に生き、共に生きる」という言葉が掲げられている。5日間を通して、それがいかに大切で難しい事であるのかを考えさせられた。

私は教師を目指しているのだが、何故教師に介護実習が必要であるのだろうかずっと疑問に思っていた。しかし、手足が不自由でも、言葉が話せなくても、どんな障がいであっても、生き生きと働くメンバーの方と一緒に働いていく中で、ここでの経験は子ども達に希望を与えることができるのではないかと考えた。教師としてこれから障がいを持つ子どもと関わることは必ずある。その時、障がいを持つ子ども達におれんじ村で学んだことを伝えれば、少しでも夢や目標を与えることができるのではないだろうかと思うのだ。また、障がいのあるなしに関わらず、私たちがお互いに生きやすい社会にするために、小学生や中学生のうちから障がい者であったとしても、そこでクラスを分けるのではなく、同じクラスで共に学ばせる時間を増やしたり、おれんじ村のように当たり前に障がい者の方と関わる社会にしていきたいと強く感じた。この5日間で学んだ事を忘れずに、これから過ごしていきたいと思う。そして、もし困っている方がいたら、積極的に声を掛けていきたいと思った。5日間という短い間だったが、共に生き、共に働き、温かく優しいおれんじ村の方々がとても大好きになった。これからもおれんじ村での思い出を大切にしていきたいと思う。

## 編集後記

こんにちは。10月より労働センターとエコネットみなまたが合併します。長年エコネット水保さんとは、粉せつけんの販売などの商売だけでなく、障害者差別・水保病差別など反差別活動においても交流をしてきました。みんな、これまで以上に売上を上げ働く障害者の所得補償を進めるとともに、反差別活動を通して地域に根ざした運動に取り組んでいきたいと思えます。

そうです、10月。10月といえば、ハロウィンです。おれんじ村の一番得意なギフト。満を持して、スペシャルなハロウィンギフトを企画しました。お子さんに、おともだちに、そして、自分へのプレゼントに。

たくさんさんのご注文をお待ちしています!!

IT部 E

